

### 第3回学校関係者評価会議 議事録

日時：2018年9月13日（木）16時～17時

場所：厚木看護専門学校 会議室

#### 1 開会（司会）

#### 2 学校長あいさつ

本日は、委員の皆様方、大変お忙しいところ、お集まりいただき、ありがとうございます。

早速でございますが、今年度より新たに学生を委員として、各学年より1名ずつ3名参加しています。

「明日の厚木看護専門学校を考える会」ということで、本日は、今後のより良い学校づくりに向けて、皆様から率直なご意見をいただきたく、よろしくお願いいたします。

#### 3 委員紹介（司会）

#### 4 報告（自己点検自己評価会議担当より）

1)（「自己点検・自己評価 2017年度の結果と取り組み」について説明）

2)（「学びの場としての学校生活支援」学生アンケート結果について説明）

自己点検自己評価は、教職員が中心となって評価している状況で、今まで学生は参加していませんでした。しかし、学びの主体者である学生からの意見も得るということについても重要性を感じておりましたので、2018年2月に全学生を対象としたアンケート調査を実施いたしました。その質問紙が先ほど配付した資料です。項目として、授業準備について、授業に臨む姿勢について、臨地実習について、学生生活支援について、をまとめたものが、資料11ページの表となります。詳細は表の方をご覧ください。

12～13ページは、アンケートの自由記載です。この記載内容につきましては、学生生活支援について、「そう思わない」と答えた理由の記載内容です。詳細は資料をご覧ください。

安心して学習に専念できるような環境を整える為の支援を学校はしていますか？について「そう思う」、「どちらかというと思う」と回答した学生は約8割居ました。自由記載では、具体的に検討してもらいたい内容が上がっております。健康管理については、看護師という専門職業人を育成するという観点から、学生が健康管理をする必要性を説明しています。しかしその必要性の真意が伝わらなかった時、無理をして学校に登校する事態になることを双方で理解する必要があると感じました。奨学金や就職に関する意見として、情報提供を丁寧にしてほしいという希望が上がりました。学生への緊急時の連絡手段として一斉メール配信システムの「安心でんしょばと」や「災害等安全行動マニュアル」については、登校するか否か判断に迷っている学生の声が聞かれ、警報の種類によりどう対応するのか？わかりやすい指針を提示する必要があると考えております。また学生自治会活動については、学生が困難に感じている事象が述べられ、学生の主体性を大切にしつつ教員が介入し整理することなど、支援していく必要性が感じられます。

報告は以上です。

## 5 議題「学びの場としての学校生活支援について」

### <司会>

ただ今の報告を含めまして、より良い学校づくりのための学びの場としての学校生活支援について、委員の皆様からご意見を頂戴したいと考えております。学生アンケートに関するご質問でも構いません。学生がそう思わないということについて、学生が記載したありのままを公表しておりますので、ご参考にしていただければと考えます。それでは、ご意見をお願いします。

### <保護者委員 A>

双方の話し合いが必要だということで、改善するところは改善するのだと思いますけれども、できること、できないことは、そのまま学生に返す方向性であると捉えて良いものでしょうか。

この質問事項に対して全てではなくても、改善しなくてはならない点はいくつかあると思います。奨学金であるとか、生活に直接関わってくる学生も居るので、学生に対して返答する場を設けるということで考えて大丈夫でしょうか。確認したく、お願いします。

### <自己点検自己評価会議担当>

今、検討している事項もあります。学生の不利益とならないようしっかりと返答していく予定です。

### <地域関係委員>

アンケート結果のグラフに関してですが、そう思う、どちらかというと思う、の2つ合わせて50%に届かない項目として、第一学科、第二学科ともに、「予習をして授業に臨んでいる」について、学生自身も上手くいっていないという自覚が十分にある、という状況でこれをどうするのか？今こうした状況で、今後どう取り組んでいくのか？学校としても大変なことだと感じますが、何か方策があれば、教えて下さい。

### <学内 A 委員>

ありがとうございます。予習をして授業に臨むという学生は、そう思う、どちらかと言えばそう思う、を合わせて約3割ということに対しては、まず入学時に1単位30時間ということで科目を設定しておりますが、これは本来45時間のところを30時間としています。厚労省からも言われているところであり、15時間分は予習・復習に充てなさい、それを含めての授業内容を提示していると、話をしています。教員もそれを見越して、事前のレポート・課題というものを設定しています。この予習を踏まえたレポートを宿題と取るのか、予習と取るのかということが、考えられる1点です。全ての科目にそうした課題が出されているわけではありませんので、3学年合わせて3割程度という答えに対して、どのように主体的に学習に臨むかということ、学校としては「予習をやった」という環境にしているところですが、「自分自身の習慣になっていない」ということについて、受け止める必要があると感じています。

### <地域関係委員>

言葉としては「予習」としかでてきていない。要は、授業内容を「よく理解できた」ということなのか、「理解できなかった」ということになってしまっているのか。アンケートで率直に把握できるといいのでは。「理解できていない」としたら、大変なことであり、学校として手を打つ必要

もあるでしょう。本人が悪いということだけでなく、いろいろな要素があると思います。学生さんがより勉強しやすい、努力しやすい環境作り、もちろん自分自身の努力も必要です。学校としての価値が高まっていくのでは、と感じました。

<司会>

講師を担当している立場より、ご意見をお願いします。

<講師委員>

私もこの項目については気になっていたところです。今の先生の説明にも「なるほど」とは思いました。もしかしたら、感じ方の温度差が、学生個々であるかな？と感じました。先生の熱意と、学生がどうすればいいのか？ということが、今一つマッチしていないのではないかな。どのように取組めばいいのか？と学生側が感じていることが、回答の中に含まれていると思います。また説明してはあまるものの時間の経過とともに忘れて、学生の立場からすると「やらされ感」がある、のかなとも感じました。予習をして授業に臨む「こうした内容を今度やるからちょっと見てきて」という声かけを口酸っぱく言っているのかも知れませんが、もう少し工夫するだけでも変わるのかな、ということと、社会に出てみないとわからない部分もあると思います。「あの時にやっておけば良かった」と感じたりするものです。あるいは、実習の前にテキストをちょっと見ておくだけでも、大分違ったりもすると思います。学生側に上手に伝えることを今後取り組んでいく必要があると思いました。授業を担当して感じることは、授業の終わりに「質問がある人はどんどん来てね」と言います。授業が終わりますと、大体の学生はそのまま自分の教室へ戻ってしまいます。「本当にそれでいいのかな」と正直に感じています。時間的な余裕が無いのかも知れませんが、先生と学生双方で時間的な余裕を見て、予習できる時間や先生に相談できる時間ももっと作れるといいかな、と感じています。

<学内 B 委員>

自己点検自己評価会議からよろしいでしょうか。今回のアンケートは、学校生活ということを中心に、自由記載を出しませんでした。学生から予習をしていない理由としては、やるべきことの量がすごく多いため、予習と復習のどちらかを考えた時に復習を選ぶ、予習をする場合に予習する内容がわかっている教科と全くわからない教科がある、時間的な余裕が無くできないといった意見が多くありました。予習をする大切さが中々学生に対して伝わらないのかも知れません。予習をすることにより、興味を持って取り組める、深めて考えることができる、自分の意見をしっかりと言うことができる、そういったところにつながっていきます。そういったことを学校全体として伝えていく必要があるとアンケート結果から感じました。

<司会>

大学ではいかがでしょうか、ご意見をお願いします。

<学識関係者委員>

やることが多く時間的な余裕が無いということから考えますと、学生が 24 時間をどのように使っているのか？学費のためにアルバイトをする学生も居ますし、睡眠時間を十分に確保できないと健康が維持できない等、かなり様々な生活背景の人が看護教育を学びに来ており、元々の背景が異なるために課題への取り組み方も異なることもあるかも知れません。課題を出すということを考えたときに、課題を出すことが必要な内容とは？次の段階への理解が進む、さらにもっと深めたくな

る等段階を作っていく必要もあると考えています。あるいは、復習を選択するということについては、授業時間内に復習できるようなワークを設けるとかなり学習進度が進んでいくので、復習型にする方が良い科目もあると思います。

<司会>

例えば、臨床等ではわからないことをやって復習するというのではなく、前もって自ら調べて準備をしてケアや処置に臨んだりすることが、あらかじめ普通であると捉えられていると思いますが、その点も踏まえて、ご意見いただきたくお願いします。

<関連業者等関係委員 A>

「明日この患者さんを看るからね」「処置に付くからね」ということがきっかけとなり、予習をするということが必然的に臨床の間ではあります。「このときまでにマスターできるように」と計画しています。それに向かって予習することにより、患者さんと接する安心感となる、実際と自分が実習したこととの違いを学習するという体験が病院ではできると思います。最初はその位のやる気で行くのですが、疲れてきてしまうと、朝起きて病院へ来て仕事をするので精一杯になり、中々予習ができなくなる時期もありますが、患者さんに向かうのに予習の必要性は十分感じているところです。

<関連業者等関係委員 B>

当院でも、最初の頃は手順とか基準をしっかり見てから、技術もある程度シミュレーションしてから患者さんのところへ行くようにしています。しかし、慣れてくるとそのまま行ってしまい、失敗して帰ってくることもあるので、わからないことや特に初めてのことに關しては、きちんと予習してから、患者さんの前に立つということを教育しているところですが、慣れてくると厳しい状況も見えたりします。

<司会>

何かをやるときには予習をするということが習慣化される、私も授業の中で目指しています。今日は、学生さんも参加していますので、やることがたくさんあるといったこともきっとあると思います。率直なご意見があれば、お願いします。

<学生委員 A>

講師の先生がおっしゃったように、科目によって次回の授業内容の予定等を前の授業の最後に伝えてくださる先生方だと、ここを学んでくれば良い、とわかります。先生によっては、先生が作って下さる資料がメインで授業が進んでいたりもします。そういう意味で教科書の次にどこをやるのか？ということがわかりづらいときも実際はあります。科目によっては、「大学では4年間で学ぶものを数回でやるので、すっ飛ばしていくよ」という場合、教えるべき内容がたくさんあって、進めることを優先させるといったやむを得ない現状もあって、こちら必死でついていくということもあります。また二科では、学校が休みの日は基本的に仕事をして、仕事の後、ちょっと机に向かわなくてはいけないな、と思っはいるのですけれども、家に着くとほっと一息つき、ぐったりしてしまうこともあったりします。それは個々の時間の使い方であると思いますが、現実はそのようなこともあるので、中々毎日というのは難しいところもあります。

<学生委員 B>

今、予習をしていない学生を擁護するわけではないのですが、同時並行して科目数がかなりの数

進んでいきます。1日1時間予習したらと言われたところで、その1時間どの教科を予習すればいいのか？あれもこれも、基礎はI～IXまで、という目標を付けづらくて、考えているうちに時間はどんどん過ぎてしまっていることも多々あると思います。一科は毎日朝9時には登校して4時半頃まで学校に居て、という通学時間も含めたら、割かれてしまう時間が結構あるという現状の中、予習としての課題、その他の課題やレポートをこなしていく、定期試験もあるので試験勉強も必要となった時に手が回らなくなるということも現実にあると感じています。

<司会>

3年生は実習中ですがいかがですか。

<学生委員 C>

学生側の意見として、アンケート項目⑧事前学習・技術練習をして実習に臨んでいる、というところは、とても達成度が高いと思います。これは広義の予習であり、演習をする場合、友人同士で事前に確認し合って、演習に臨んでいく、そういった場面もあります。テストで教員から「ここが出ますよ」と言われたら、時間をそこに充てるのか、予習をするのか、と問われたら、恐らくテストのための復習に取り組む学生が多くいると思います。「先生からテストで「ここが出る」と言われたから復習しようよ」となり、該当する資料だけ見て、教科書には手を付けずということにもなります。予習に限定した項目なので、達成度が低く出ています。「復習に臨んでいる」「授業で与えられた課題に対して取り組んでいる」とあれば、もう少し達成度も上がると思います。実習では、受け持ち患者さんの疾患、必要とされるケアについて等、すごく勉強する学友達です。講義については筆記試験があるということもあり、予習というところが足りないかな、と思いました。

<司会>

ありがとうございました。現実には、単位を取らないといけないということもあります。学生さんや委員の方々からも意見をもらい、予習に関しては課題も見えてきました。お時間も限られておりますので、この中でもう1項目位をここで協議いたしまして、明日へつなげていきたいと思いますので、ご意見をお願いします。

<関連業者等関係委員 A>

自由記載⑨のところに「体調不良時や…スムーズに休むことができず、無理に登校しているイメージがある」との記載は、具体的にどういうことなのでしょう。

<学内委員 B>

そのままですが、学生さんからお話してもらった方が、理解できると思います。

<学生委員 A>

おそらくですが、二科ですとお子さんの行事でどうしても学校を休まなければならないという時に、大分前から小学校や幼稚園から通知が届いていて、学校の登校日と重なっていたりします。欠席するという選択を取り、教員へ話すと、代わりに行ってもらえる人は居ないのか、授業優先にはできないのか、という提案を逆にされて、中々欠席することが難しいということがあります。

<学校長>

1回ではすんなり通らずに、何回かやり取りしなければならないというイメージなのかな、と話を聞いて思いました。

<学生委員 A>

登校できないのか、と相談されているところを耳にしたこともあります。

<司会>

体調不良であるとか、受診のためと連絡しているのに、そのやり取りにより、スムーズに休めないというのは、どういうことなのか？ということですね。先生達にお心当たりはありますか？

<学内委員 A>

私たちは、学生が卒業後に臨床に立った時、休まずに責任を果たしてほしい、という思いが強くなります。普段から休まないようにと指導している中で、ここぞという時に体調を崩してという連絡が入った時に、まずは「受診しましょう」という流れになります。思わず、指導が電話の会話に入ってきたりします。「受診しましょう」に始まり、「どうしてそうなったのか」、「土日で出かけていたのか」等先生に「疑われた」と捉えられかねないことがあったかも知れません。学生から「お休みさせて下さい」と言われて、「はい、わかりました」という即答ではなく、症状や経過、受診しなさい、提出物はどうするのか？試験はどうするのか？電話でのやり取りが大分あることは確かです。そこのところが、学生としてみれば、こちらが「本当につらい」と言っているのに、ということでミスマッチを起こしているものというのが、教員の言い分でもあります。

<司会>

つまり体調不良時でつらいのに指導が入るということですね。こうした学生からの意見があるということについて、私たちも考えなければなりません。もちろん指導するということは必要です。体調不良時にわざわざ、「あれも、これも」というところが、どうなのか？という学生の意見であると考えます。卒業生として昔はいかがでしたか。

<卒業生委員>

昔も同じ感じだったと思います。気になりますのが、二科の3年生ですが、社会経験も積んで入学していて、社会のあり様を十分に理解している人達から何故こうした話が出てくるのかな？何か特別な背景でもあるのかな？自分の在学時と比べてちょっと違和感を持ちました。先生のお話から、一科の学生さんも同じことがあるのに何故、二科の学生さんだけ出てきたのか？何か特別な事情でもあるのか？と思いました。

<司会>

教職員から見ていかがでしょうか？

<学内委員 B>

想像ですが、なるべく休まないよう努めていた学生さんでした。国家試験前はかなり休み始めて、クラスが全員揃わない時があり、その時に体調管理のところで、教員側にも少し「本当なの？」といった対応があったのかも知れないと感じていました。実習前というより、国家試験前の単位も全て取れていて、「自分でやらせてほしい」という希望も学生の中にもありましたので、そういった点も関連しているのでは、とこれを読んで感じました。

<司会>

自分でやりたいという気持ちも十分理解できます。ただし、当校で過去に苦い経験があります。学生の希望を汲んで、任せてやらせてしまったら、結果につながらなかったことがあります。それは繰り返せないということが、教員にも根付いています。そうした兼ね合いもありますが、学生との対話が大切であると考えます。曾我委員、保護者の立場からご意見をお願いします。

<保護者委員 B>

うちの子は、体調上、気持ち悪くなってしまうことが多々あります。そうした時も我慢をして授業を受けている。授業が大切であることをよく理解しているので、「気持ち悪い」ということを言えずにいます。もし「気持ちが悪い」と言えば、もっと何か言われてしまうのでは、と感じてしまいます。病院から学校へ電話をかけているのも隣で聞いていました。つらいのに電話で長いこと話をしていました。親としても、結構つらいだろうけど、答えなければならない、学習しなければならないという子どもの強い気持ちを十分感じ取りました。つらい時なので、もう少し優しくしてほしいと感じました。本人は、学校に通わなくてはそのということもよく解っているので、休まなかった。これからもお世話になりますが、健康面のことが心配です。

<司会>

貴重なご意見をありがとうございました。体調管理のことは、学校でも検討させていただき、またご報告できれば、と考えております。

<学校長>

臨床では、体調不良は増えていますか。

<関連業者等関連委員 B>

朝、熱があるけれども、病院まで来ました。しかしながら、患者さんの前に立つことは難しい状況なので、受診を促すということもあります。

<司会>

1クラス40人、二科だと30人という枠が、病棟1チーム位というラインであると考えたとき、毎日誰かが休んでいる病棟は、存在しないです。基礎教育であるけれども、専門学校であるという私たちの感覚があり、臨床に出たときにすぐに適応できてほしいという願いも強くあります。私は学生に対して、1病棟毎日誰かが休んでいる病院は無いよ、という話をよくします。大分、お休みも少なくなってきた、頑張っているところです。ただし、その陰に今、保護者が述べられたような現実も潜んでいます。そのことについて、私たちもきちんと周知した上で、学生と関わっていかなければならない、と思いました。

実際、具合が悪くて座っていて、効果的な学習が本当にできているのか？ということも考えていなくてははいけない。座るということが目的ではありません。効果的な学習をすることが目的だと思うと、検討させていただきたいところです。

<保護者委員 B>

休んでしまうと、授業に出ることができないということをよく解っています。それを承知で我慢して言っていることもありますし、本当は受けたいのには受けることができないこともあります。

<司会>

病棟管理の経験がある委員にうかがいたくお願いします。病棟でも簡単に「休みを取ります」と申告をするスタッフが居ない中で、お休みが出たときの指導はどのようにされていきましたか。

<関連業者等関連委員 C>

私自身の経験ですが、自分が休んでしまうことにより、他に迷惑がかかるから休めない。でも自分の体調が万全ではなく、患者の前に立つことは職業人として問題ではないかと考えます。お休みをしてしまったとしても、患者さんを守るためでもあるよ、と話すようにしています。実際にスタ

ップが体調の悪い時に病棟科長として、病院へ行ったのか？何だったのか？と聞いてしまったこともあった。自分自身も新人の時そう言われて、かなりストレスに感じ、次に出勤することが恐いな、と思いました。学生さんの中に、今のように言えない背景であるとか、授業や実習を休むと補講も増えてきている。中々言えなくなっている背景もあるのかな、と感じています。

<司会>

お時間がもう少しございますので、他にもご意見やご質問がありましたら、お願いします。

<地域関係委員>

地元自治会です。この度、夏休みに入ったばかりで、東方面からお越しいただいた方はお気付きかも知れません。トンネルに立派な壁画、力作がございます。北側に向かって左のみになりますが、看護学校の学生さん 20 名ほどが 2 日間頑張って描いてもらったものです。地域の防犯力向上、明るくなったという点で非常に感謝しています。看護学校には地域活動に貢献していただいたと考えております。この地域で、より大きな単位で地区割りがあり、福祉・介護だけでなく様々な活動しております。地域活動に看護学校が関わっていただけましたら、素晴らしいことであると思っております。できる範囲で構いませんので、是非ご検討ください。今回、壁画制作ではお世話になり、大変ありがとうございました。

<司会>

賜っておきます。自己点検自己評価でも地域活動が含まれております。ほかに何かございませんか。

<学生委員 B>

「安心でんしょぼと」は、E メールにより学生に一斉に連絡事項が配信されておりますが、中々メールを開けない学生も居て、知らなかったとか、全員開封が難しい状況であるとよく聞くところですが、もし代替え案等あれば、ご検討いただきたく考えております。

<司会>

委員の方に補足しますと、学生への緊急時の連絡手段としまして、一斉メールを配信しております。しかしながら、今、メールではなくて情報ツールとしてライン等が主流となり、毎月 1 日にテスト配信を行っていますが、中々開封ができないという声があります。災害時・緊急時の連絡ツールとして用いていますが、開きにくい、つまりメールをほとんど使わなくなっているということです。始めて 2 年目でそろそろ評価の時期となっており、学校内でも検討してまいりたいと考えております。

<学校長>

大学での対応は？

<学識経験者委員>

きめ細かにされていますね。私のところでは、基本的に時刻を決めて、例えばその時刻に交通機関の乱れがあれば、午前中休講とかしています。実習には対応できないので、別に検討してグループで対応等しています。ダイヤの乱れについては、遅延証明の提出での対応としています。学生にはポータルサイトではなくメールを使っています。学生が開封できたか確認がコストの関係もあり、対応できていません。

<司会>

「安心でんしょぼと」は開封の確認ができるツールです。学生が閲覧したのか？を確認できるツールを探して、「安心でんしょぼと」を採用した経緯があります。今の学生が使用するツールに合わないものとなってきました。

<保護者委員 B>

学生であるのは3年間。その時だけ、意識すればいいと感じます。先生が連絡することはすばらしいとも感じました。

<司会>

今のご意見も含めて、検討させていただきます。丁度閉会の時刻となりましたので、この辺で閉会とさせていただきます。本日はどうもありがとうございました。